

山道

國分方面の山登り——

堅上方面の山登り——

第三、床磨き

第一線の將兵が陸に赫々たる戦果をあげて居りますのは、大御稜威の然らしめるところでございますが、日本人が強靱な腰を持つてゐるといふことも、一つの大きい原因をなしてゐると存じます。強靱な腰、それは匍匐生活を永く續けたからでございます。禪の修業でも精神修養に併せて身體、殊に腰の鍛錬に拭掃除を採り入れられてゐると伺ひます、かうした意味から、洋式生活の増しつゝ、あります都會人に、出来る丈匍匐生活を永く續けさせる爲に、毎水曜土曜の朝、最年長兒に、七十五坪の遊戯場の床拭きを實施させて居ります。一見無理な様に思へますが、子供の一日の生活を通覽致します時、砂遊びに、飯事遊びに、積木遊びに、匍匐状態の場合が極めて多うございます。そこでこの生活を規律的に、體育的に取扱つたのでございます。

尚、拭き上げた床を、年長兒年中兒が向ひ合せの二列横隊に正

座し、ワックス雑巾で交互に床みがきを致します。一方が腹の運動をしてゐる時、他方は脊の運動をする様になるので誠に面白く愉快なうちに終始致します。

第四、土運び

腕の力を練るのに、低鐵棒、登り棒などでの運動もよろしいが、それにも増して、増産と併せての土運び保育は、確かに一石二鳥でございます。

毎週一回、小さいバケツに、一・三疋乃至一・五疋の土を入れ、約六米の距離をあげて順送します。空バケツは年中兒が同じく順送して返します。

機械的な共同作業の愉快さを相當に味はひ得ますので、かなりに注意が續きます。

以上の外、動物飼育、農場作業と、かなり體練的な行事を保育項目として、積極的に健康増進を計つて居りますと共に、他方

農場で出來た野菜を入れて、毎日味噌汁の給食をし、肝油、エルビオゲンの服用をさせて、消極的保健に留意するなど、都會人の面目にかけて大いに努力致して居ります。

子供達を丈夫に育てたい爲に

石川師範女子部附屬幼稚園

作 田 せ つ

一、こんな目標で 1、自然が育てるのだ

○外を喜ぶ子に 陽を浴びさせる 空氣を食べさせる

2、鍛練的には

○正しい姿勢の出来る子に ぐらつく子はしやべる 不健康な子はぐらつく

○がまんしてやり通す子に その意志は力のありたけを育てる 不健康な子はいゝ加減で逃げる

○出来るまで繰返す根氣のある子に 練習の妙味を喜ぶやうになる 不健康な子は出来ねばすぐ止める

○先んじてやつて見やうとする子に こんな子は用心の用心する 不健康な子は憶病だ

○歩ける子に 丈夫な子は歩いてゐることを忘れてゐる 不健康な子は歩けない、否 歩かない

3、鍛練は周到な養護の下に やり過ぎはやらぬより害がある 保護し過ぎては風を引く

二、こんなにしていゐる

1、屋外保育を重視する

夏も冬も先生が常に外に在るやうに努力してゐる。これはほんごに努力である。外は身心共に疲れる、外は何となく落付けない、準備にも苦勞が要る、そして不便だ。しかし屋内では子等は丈夫にならぬ。子等は先生のあるところにならぬたいのだ。

○夏は 裸體で體操する 乾布摩擦をする(六月頃より) 下着だけで遊ぶせる

洋服の着方、脱ぎ方、たゝみ方、置き方、拭き方、たゝみ方、つけ方、 } を訓練する
下着を整へる白色一帯付(手拭をつける)ポケット付(紙を

入れる)

○裸足にもさせる 足の洗ひ方、拭き方を教へる 履物の並べ方を教へる (足洗場が不備なので困つてゐる)

○雪と遊ぶ 遊具を整へてゐる。(縄、こしきだ、スキ) 手足の拭き方、温め方を教へる 保温食を攝らせる(給食)

す)欲しいものは 長靴か藁靴
○外が保育室 聴くことも 畫くことも 手技することも

環境が睡がしいので落付を見せるまでの訓練が中々出来ぬ。但しそれにも増して子等の身體の丈夫になるのが嬉しい。

屋外保育用机、四人一基のもの九脚 腰掛は遊戯室のものを各自で運ぶ 腰掛の持ち方、運び方、仕末方の訓練が出来る

2、姿勢を正しくさせるやう常に注意する

○じつとしてゐられぬ子の身體狀況に特に注意する

○家庭に向つては「先づ姿勢のよくなる迄」と協力を求める

○儀式に於ける姿勢の訓練を重視する

3、特に外の遊具を整へて積極的に身心を鍛練する

○雲梯 一基 掌の豆の破れた子も幾人もある。子等はそれを名譽にしてゐる。がんばりやでなければ中々の懸垂は成功したい。

○固定平均臺 角棒二臺 丸太一臺 幅の廣い方から細い方へ、細い方から丸い方へ、この平均臺は休憩用の大切な外用腰掛である 臆病な子は通り越せぬ

○み、石 大小丸角、色々な形の石を六十粒おき位に地中にその半分を埋めてある。根氣のいゝ子でなければ傳ひ越せぬ。

○低鐵棒 三間

見やう見真似で子等は器用に使ふ勇氣と用心を要する

○迂り臺、迂ることゝ、登ることゝ。迂るには勇氣が要り、登るには力が要る、自分で自分の身體を支へるだけの力は欲しい。迂り臺一つ迂れない子は心配である。

○棹上り 一基 手を離して立上つた時のあの得意さと用心深さは、次への冒險をのり越える。

○ブランコ 二基 ブランコにのれぬやうな子は船にも乗れぬ。

4、歩くこと 通園距離一杆以内は歩くことを本體とする。但し身體狀況交通状態により許すことあり。

5、養護しつゝ、

○體重測定(毎月十五日) 毎月連絡簿に記入して家庭に通知
子等に表の見方を教へて關心をもたせる。

○給食(副食物のみ)通年 どんなものでもたべられる子に。
冬は特に温食給食の意味を持つ

○辨當保温(十二月より)

○太陽燈照射(本校設備のものにより) 醫師の診察と家庭の承諾を経て 照射前に必ず検温して身體狀況を見る。

○手洗場 保育室前に設備してある 洗手を憶劫がらずにするやうに食前食後は必ずうがひをさせる。

○着衣數に留意して 氣温、運動量によつて着物を脱ぎ替へさせてやる。随分面倒なことだがかうしなければ薄着、厚着のほんたうの意義が徹底せぬ。

○連絡簿によつて

毎月測定の體重
身體検査結果
毎月出缺狀況
其他身體狀況
齒牙検査結果
を通知し、處置
治療をさせる

○朝の清操を念入にする。

三、結び

かう書立てて見てふつと思案した。結局何もしてゐない事である。けれど有難い事に子供達の顔がだん／＼黒光りに光つてきた。何もしないでもいゝ。外へ出すだけでいゝのだと極端に信じてゐる自分である。(在籍三十五人 一年保育) 以上